



再歩

～にぎわい再び～

のぐち酒屋・
コミュニティスペース noguchi (代表 野口 義晴さん)
のぐち よしはる
野口 義晴さん
行政区： 広崎3町内

失敗してもいい まずは挑戦しないと

6月上旬、広崎の県道熊本高森線沿いに店舗を構える、野口さんに話を伺いました。古民家を思わせるような店内で、落ち着いた雰囲気の中、野口さんは震災当時のようすやこれからのことを語ってくれました。

発災直後、自宅兼店舗は手が付けられないような状態で、店舗にある商品・備品ほぼすべてが使用できない状況でした。自宅で生活ができなくなった野口さん夫婦は、車中泊の後、片付けた店舗で寝泊りする生活をしばらくの間送ります。

商売についても、3か月間は店舗での営業をストップせざるを得ず、通販のみの営業となりました。

あまりの甚大な被害に、野口さんは廃業も考えました。現在業務に使用している備品などのほとんどが、震災後に購入したものであることを考えると、被害の大きさがどれほどであったか、想像に違わないものでしょう。

そのような状況の中、店舗の再建を考えたきっかけはグループ補助金でした。

自己資金のみでの再建は難しいと考えていた矢先に、補助により負担が軽減されるとのことで、再建へと踏み切った野口さん。平成28年の12月から酒屋の改装を行い、約半年で復旧させ

ました。

また、復旧を機に野口さんは新しい試みとして、店舗にコミュニティスペースを設けました。昼はランチ、夜はお酒、たまに行われる生演奏など、人々が集まって楽しめるイベントを企画しました。

「地震をきっかけに(お店を)知ってもらえるようになった」と野口さん。改装直後は、再開したこと自体知らない人が多く苦労されたとのことでしたが、メディアや口コミで少しずつ客足が伸びました。

今では老若男女、さまざま人が訪れる癒やしの空間となっています。

一方、グループ補助の申請に関しては苦労し、大量の資料の作成に追われました。

商工会に相談し、何度も県庁に出向いた野口さん。当時を振り返り、「非常に大変でしたが、その苦労があったからこそ、今この店舗がある」と話し、「マイナスをいかにプラスに変えるかが大事。やるなら前向きな考え方でやれば良い。地震を機に益城町は注目されたのだから、失敗してもいいと思っただけ、まずは挑戦しないと力強く続けました。」

今後、スポーツイベントのパブリックビューイング、9月には一緒にグ



店内は野口さんのこだわりのインテリアでいっぱい。いろいろも備えてあり、さまざまなシーンに対応できます。店の入り口には趣味で始めたという革工芸の作品も展示されています。



グループ補助を申請した仲間と地域イベントを企画するなど、新しい取り組みする野口さん。「何かをつくる、企画をするのは楽しい、ワクワクする」と目を輝かせます。

今後も野口さんの挑戦から目が離せません！

産業振興課 商工観光係
☎ 286-3277